

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

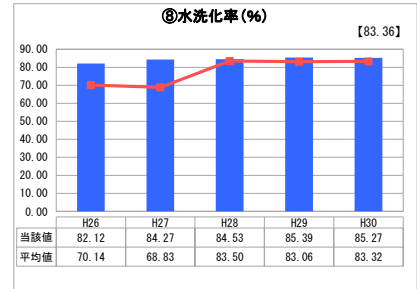
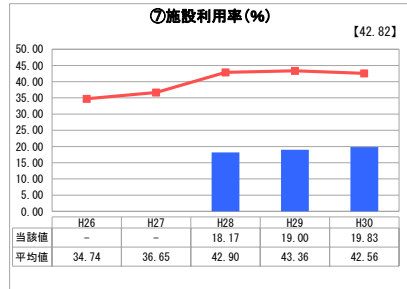
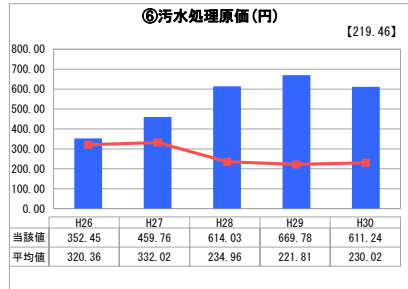
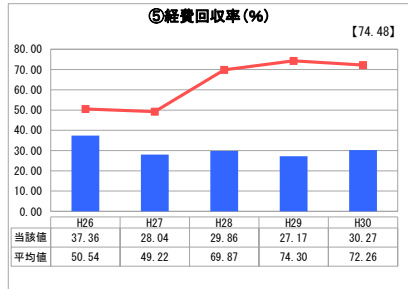
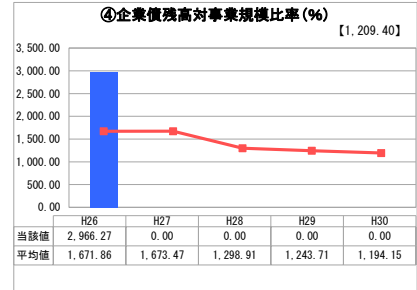
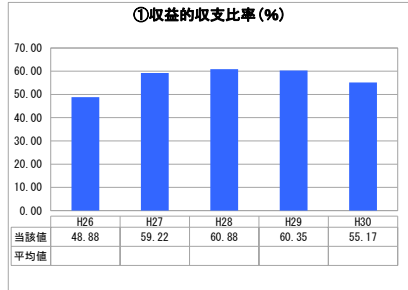
山形県 尾花沢市大石田町環境衛生事業組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	4.55	90.91	3,240

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,052	0.53	1,984.91

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

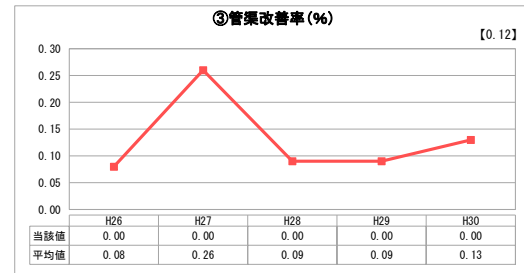
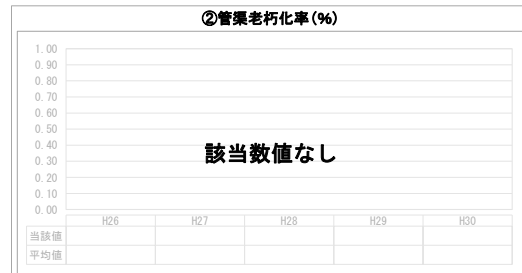
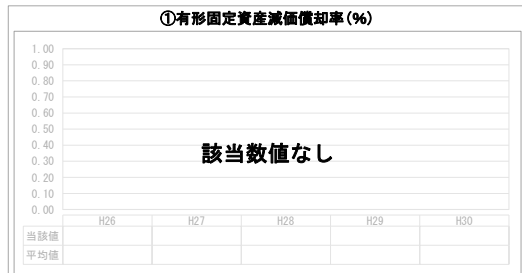
### 1. 経営の健全性・効率性について

経費を回収しきれず、繰入金に依存している状況にある。特に地方債償還金が影響して収益的収支比率が低迷している。特定環境処理区は整備が完了していることから、企業債残高については今後減少していくものと思われるが、銀山処理区の維持管理費が経費を圧迫している。今後の老朽化対策を見据えた場合、経費縮減と合わせて適正な料金への改定が求められる。汚水処理原価については、銀山処理区が圧力式下水道であることから、維持管理費が割高になっている。省エネ対応機器への更新も含め、維持管理費の削減が求められる。水洗化率においては、近年横ばいで推移している。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から、田沢処理区は18年、銀山処理区は17年経過している。定期的な管路点検を行っているが未だ更新の実績はない。しかし、圧力式下水道を採用している銀山処理区では、硫化水素により老朽化の進捗が早いことから、小規模な修理を適宜行っている状況にある。今後、浄化センターの大規模修繕への備えが必要であるため、維持管理経費の削減、各下水道使用者への除害施設等の維持管理の徹底を啓蒙して、浄化センターの延命に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

事業が完了していることから、料金収入の大幅な増加は望めない状況にある。今後の銀山処理区の老朽化対策には多くの費用が予想されることから、適正料金への改定を視野に入れた持続可能な事業経営を図る。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。